

鹿市医狂壇



540 樋口 一風 選

兼題「掃除(そつ)」

天

掃除なんだせんどん正月ちや来つち不精

(唱) 予つしちよつで大概で良かがち

(評) 無精もここ迄なれば立派なものです。尤も予て掃除をしているから特別掃除をしなくてもいい訳だが、仕来りとして一年の塵以外の諸々の悪を清める意味で、大掃除をするのだと思います。歳を取ると掃除をするのも億劫になって来て、今年はしなくてもいいかと適当に誤魔化しています。

この家も似たような家で開き直っています。それでいいのです。

薩摩狂句鑑賞 179

薩摩狂句曆

三條風雲児著 から

鍋ん雉子じゃ苦笑れすそな大て語い

田川 隆一

魚釣りもそうだが、猪狩りにしろ、鴨や雉子猟にしても、どうも自慢話が付きものようである。だから、ご馳走になる時は、それを聞かされることを覚悟しなければならぬようである。

この句は、煮られている鍋の中の雉子まで、苦笑しそうな法螺を吹いているという意味であるが、実は、法螺を聞かされながら、雉子を食べている人の気持ちなのである。相槌をうってやれば、得意になっっている顔が目に見えかねて来る。

田の神ぬ負るた盗人が畔ぜ転つ

長瀬 ポンパツ

昔はよくよその田の神さあを盗んできて、自分たちの田んぼに置く風習があるところがあつたようである。

しかしこの句の場合は、おそらくそうしたのではなく、素朴でユーモラスな姿をした田の神さあに魅せられての盗みだろう。

ところが意外に重い田の神さあを背

地

退職てかあ家内ん下知で掃除ず習つ

伊敷支部 谷山五郎猫

(唱) 先つ手初めは電気掃除機
(評) 定年退職して、再雇用でなく自宅にいるご主人の生活は、大概奥様にこき使われているようです。このご主人も、まず掃除からさせられたようです。掃除もただ漠然と、掃除機を掛ければいいものではなくて、何かコツがあるようです。当分は特訓が続くのでは。原句は下五が「掃除ず始め」になっていましたが、下五は終止形か名詞で止めましょう。

人

誠て早え四角な座敷く丸る掃えつ

上町支部 吉野なでしこ

(唱) 隅くじらいなまだ綿埃
(評) 諺に有つたような気がしますがそれをうまく取り入れて、立派な句に仕上げてあります。諺を取り入れると失敗することが多いのですが、この句に上五がよく合っているようで、すっきりとした句になりました。

適当にやっていると後で困りそうな気がします。

薩摩狂句誌 洪柿八四四号雑吟から

定年な疲るい迄よち今日も現場

瀬戸口 捨緑

(唱) 天職じゃつち仕事ち惚れ込つ

不安な事有事抛点ぬ受諾た知事

米元 年輪

(唱) 本音を言えば反対じゃつち

冷や冷やん検査じゃつたが帰や口笛

樋八重 溪流

(唱) 今夜ん焼酎ん皿も考つ

なれそめを聞けば赤こない九十歳夫婦

宮路 めだか

(唱) あらいよまあち目どん合わせつ

翔平が打つて走つて歴史しなつ

谷口 すずめ

(唱) 前代未聞言う凄ぜ記録

軒く掻つ昨夜は良寝たち爾痒い亭主

有馬 湧声

(唱) 家族ん辛抱は知いもきつせじ

五客一席

慣れん掃除高価か骨董い気を遣こつ

紫南支部 加治屋犬好

(唱) 割れあせんかち怖気つた叩つ

五客二席

暮れん掃除飲ん屋ん請求書を見付け出つ

伊敷支部 谷山五郎猫

(唱) 女房けな露見んし済んだで安堵

五客三席

大晦日纏めた掃除で疲れとけつ

上町支部 吉野なでしこ

(唱) ごろいと正月ちや家族で寝正月

五客四席

掃除時間如何んサボるか頭を使こつ

紫南支部 加治屋犬好

(唱) 今日は風邪ち順繰い仮病

五客五席

みごてこつルンバを使こつ涼し顔

上町支部 吉野なでしこ

(唱) 我がでしたよな大法螺を吐えつ

秀逸

内視鏡医い大腸ん掃除すば褒められつ

伊敷支部 谷山五郎猫

アルバムが出つきて掃除の手が止まつ

紫南支部 加治屋犬好

白澤 黒猫

字が下手でパソコンで書たラブレター

(唱) 野暮天じゃつち恋どま冷めつ

井戸川 三鶴

分別の塵ぬ鳥が見張ゆしつ
出が悪いち爺様は漢方を取り寄せつ

狂句募集

◎2号 題吟「振袖(ふいそで)」

締切 令和7年1月7日(火)

◎3号 題吟「動悸(とためつ)」

締切 令和7年2月6日(木)

◇選者 樋口 一風

◇漢字のわからない時は、カナで書いてご応募ください。選者が適宜漢字をあてさせていただきます。

◇応募先 〒八九二一〇八四六
鹿児島市加治屋町三番一〇号
鹿児島市医師会「鹿児島市医報」編集係
TEL 〇九九一二二六―三七三七
FAX 〇九九一二二五―一六〇九九
E-mail: ihou@city.kagoshima.ned.or.jp